

序

なぜわれわれ医者は便秘患者をうまく治療できないか？

この問いが本書の作製の契機である。これまでわが国には便秘薬といえ
ば2種類しかなく、われわれ医師の武器もなかった。また患者も多くなく、
「どうせ病気ではない」といった考えも相まって便秘に関しては医学部教育
でも教えられないし、研修医教育として医師になってからも学ぶ機会がな
い。つまりわれわれは、便秘をまともに診立てることができないのである。
診断ができなければ治療もできないのは当然である。

一方患者のほうはというと、どんどん変わってきている。まず高齢化社
会による便秘患者の爆発的な増加に加え、「便秘＝女性の病気」という常識
が崩れたこと、また医師にとって便秘は放置してよい病気であるという認
識の根底にあった「便秘＝死ぬ病気ではない」といった大前提も崩れたこ
とである。このような状況のなかで新薬が続々登場してきているため、一
体全体どれをどう使ってよいかわからなくなってきた。

さて、便秘はどの診療科においても必ず対峙しなければならない疾患で
ある。われわれ医師は便秘治療から逃げることはできない。一方患者は医
師の治療にはなはだ不満であるということが多い。

このような状況で、一度便秘のことを簡単に学んでみたいという医師の
ために、誰も教えてくれなかった便秘の診断から治療まで一冊で学べるよ
うに本書は企画された。基本的な知識から各診療科別に特有な便秘の診療
についてまで網羅されており、どの診療科の先生がお読みになっても必ず
やお役に立つと確信している。執筆者を代表して本書が日常診療の助けに
なると自信をもってお勧めするしだいである。

2022年3月

横浜市立大学肝胆腸消化器病学教室主任教授

中島 淳